

京都とともに、127年の水脈

明治維新の東京遷都により人口減少や産業衰退に直面した古都・京都の再興を後押しし、近代化の原動力となった蹴上発電所。

今も現役で京都の街を支え続ける一方、観光振興という新たな役割も担う。

地域に根ざす企業としての現場の取り組みを追った。

水力発電事業発祥の地

南禅寺、知恩院など名高い神社仏閣が集積し、春は桜、秋は紅葉の名所としても知られる京都・東山。その一画に、1世紀以上に亘り京都の人々の暮らしを支えてきた発電所がある。日本初の事業用水力発電所・蹴上発電所だ。

今から127年前の1891(明治24)年、第1期蹴上発電所が運転を開始した。琵琶湖の水を京都に引き込む琵琶湖疏水を利用した水路式発電所で、その発電した電気は日本初の電気鉄道(京都電気鉄道、のちの京都市電)にも使われた。

その後、増え続ける電力需要を賄うべく1912(明治45)年に第2期発電所、1936(昭和11)年に第3期発電所が竣工。今や第1期は現存せず、第2期のレンガ造りの建屋を残すのみとなったが、第3期は今も現役の発電所として、京都の街に電気を送り続けている。

IEEEマイルストーンに認定

2016年9月、関西電力に嬉しい知らせが届いた。蹴上発電所が世界的に権威ある『IEEE(アイ・トリプル・イ)マイルストーン』に認定されたのだ。IEEE(The Institute of Electrical and

目。今回は京都市との共同受賞であり、京都の建造物が認定されたのは初めてだ。蹴上発電所が日本初の事業用水力発電所であり、その発電した電気が街灯や工業用電力、日本初の電気鉄道に使われるなど、京都ひいては日本の産業の近代化に貢献したことが評価された。

日本の近代化を牽引

「見学会では日本の近代化を牽引した発電所だということを伝えている」と笑顔を見せるのは、京都電力部京都電力所で水力発電の保全主任を務める伊吹達也だ。水力発電所・変電所の保全業務に携わる傍ら、ベテランの知見を生かし、地域対応・見学対応も担当。

「蹴上発電所以前の主要電源は石炭火力であったが、石炭価格の高騰により安定的に低コストで供給することができず、電気の普及の妨げになっていた。しかし水力発電の開発が進められ電気料金が下がると、電気は急速に普及して近代化の原動力になった。『その先鞭をつけたのが蹴上発電所です』と説明すると、『日本初の事業用水力発電所ということは知っていたが、歴史的な役割までは知らなかった』と感心してくださる方も多い」と語る。

レンガ造りの第2期発電所



見学対応も行う伊吹



第2期蹴上発電所の建物の正面に掲げられた「功天亮」(てんこうをたすく)の文字は、今上(平成)天皇の祖父である久邇宮 邦彦王の筆によるもの。「水力エネルギーという自然の恵みを、人々の暮らしに生かすことこそ、天の意思に叶うものである」という関西電力の思いが込められている。



アーチ型の放水口



巡視点検をする中江



水圧鉄管

Electronics Engineers) とは世界160カ国以上、42万人超の会員を擁する電気・電子技術などの人類社会に有益な技術革新に貢献する世界最大の専門家組織。IEEEマイルストーンは、電気・電子・情報・通信の関連分野で達成された画期的イノベーションの中でも社会や産業の発展に貢献し、かつ開発完了から25年以上経過した歴史的偉業を表彰する制度として、1983年に制定された。

日本では東海道新幹線、自動改札システムなど約30例が認定されており、国内の電力会社では、関西電力の黒部川第四発電所(2010年認定)に続いて2例



発電所構内には、世界的な電気・電子技術の専門家組織IEEEより贈られた銘板(手前)「水力発電事業発祥之地」の石碑(左奥)もある

明治150年を機に広くお披露目

IEEEマイルストーン認定を機に、蹴上発電所は貴重な産業遺産として、注目が高まった。折しも2018年は明治維新から150年。節目の年を迎え、観光資源に活用していくという機運もさらに高まってきた。

こうしたことから関西電力は、これまで原則非公開だった蹴上発電所の一般公開を決定。2018年3月より毎週金曜日午前・午後の計2回、事前予約した希望者(定員20人)を対象に、普段立ち入れない発電所構内を案内する「蹴上発電所見学会」をスタートさせた。

予約満員が続く大盛況

現在、蹴上発電所見学会は一般公開が始まって以降、予約満員の大盛況。見学者希望者も近隣府県だけでなく全国各地に及ぶなど、上々のスタートを切ったが、「まだまだ工夫の余地はある」と伊吹は言う。

「歴史や技術が好きで、『もっと深く知りたい』という人にも満足していただける説明を心掛けたい。設備面の充実もこれからの課題。せっかくの資源、有効に活用して地域振興のお役に立てたい」

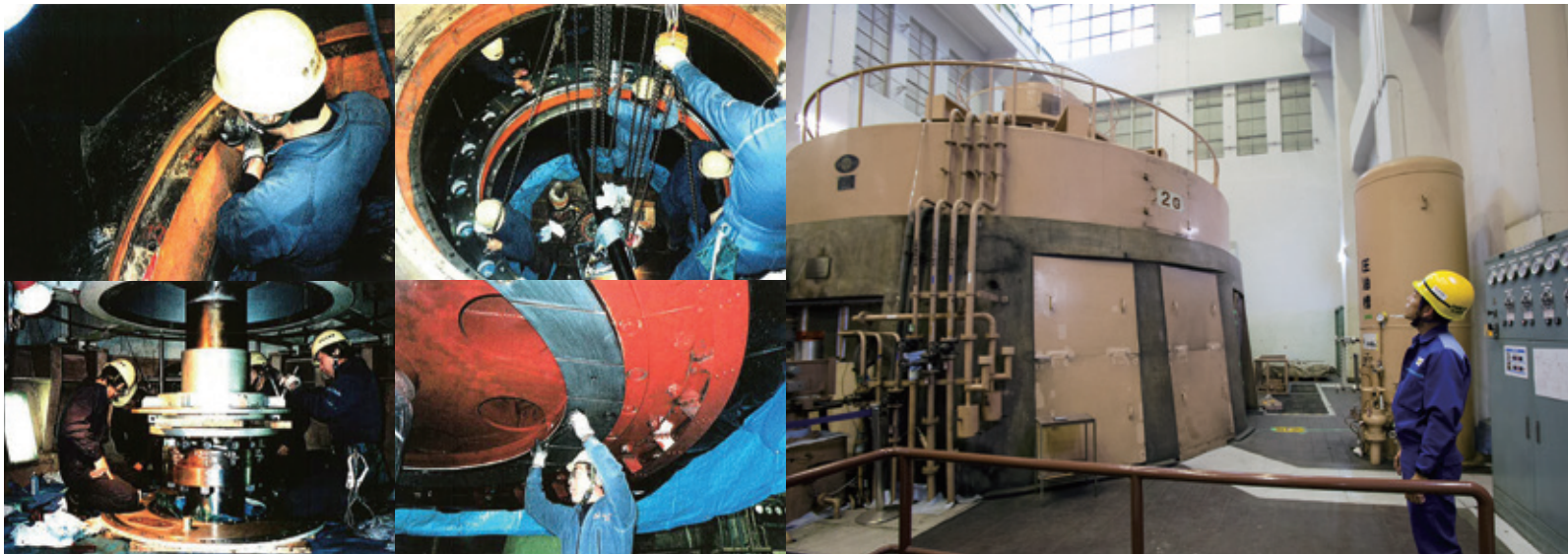
この先も長く元気に
活躍させるために

同電力所の作業長・中江洋介は、管内8カ所の水力発電所の巡視点検や工事立会、機器の取替など発電所に足を運ぶことが多い。蹴上の他にも京都には建設から100年を超える水力発電所が幾つもある。蹴上と同じく琵琶湖の水を利用した宇治発電所は1913（大正2）年運転開始、蹴上の下流にある夷川^{えびすがわ}発電所、墨染^{すみぞめ}発電所はともに1914（大正3）年運転開始。しかも宇治と夷川は、建設当時の建屋がほぼそのままの状態で見られている。

「歴史があるということは、それだけ設備も古いということ。もちろん発電機などの機器は何度か新しいものに取り替えられているが、突発的な故障が生じることもある。そのため、設備の不具合を一つでも減らし、いかにして延命させるかに知恵を絞り、信頼度を上げられたときの達成感は何物にも代えがたい」

中江の言葉に伊吹も「トラブルで止まった設備を復旧させたとき、また自分の立てた改修計画によって信頼度が上がったときは、やり甲斐を感じる」と頷く。

20年前のオーバーホール



今なお現役の発電機

約20年ぶりのオーバーホール

1936年の運転開始から82年。今も一般家庭約5千世帯分の電気を発電し続けている蹴上発電所は、約20年ぶりの大規模設備改修「オーバーホール」が予定されている。

「水車発電機の部品1点1点を分解し、部品の取り替えや、補修・点検を行うオーバーホールは、我々にとっても現役中に1回経験できるかどうか。まさに技術継承のチャンスだ」とベテランの伊吹が言えば、作業長として後進の指導にあたる中江も、人材育成の場としての重要性を強調する。

「オーバーホールはなかなか経験できないので、若手に経験できる機会があるなら、ぜひその機会に多くを学んでほしい。私自身も過去の研修でオーバーホールに立ち会ったことがきっかけで水力を学び、今の道に進んだ。今回もできるだけ多くの若手にオーバーホールの現場を経験してもらい、次の世代に技術を継承していきたい」

千年の古都を支える電気を、未来に向けて守り続ける者たちがいた。 **躍**

編集後記

2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2021年ワールドマスターズゲームズ、そして2025年国際博覧会の大阪・関西開催へ、グローバルイベントが続き、訪日客数の増加も期待されるなか、今号のテーマは「都市間競争と観光立国」です。橋爪紳也さん、デービッド・アトキンソンさん、矢ヶ崎紀子さんにお集まりいただいた[鼎談]では、観光立国への日本の現状とビジョン、課題について、議論を展開。続く[オピニオン]では、「競争戦略」「万博誘致」「地域と企業」の各面から観光立国への視点について識者・専門家に提言をいただきました。観光関連の旬の取り組みとして[旬発NIPPON]では、全国初のマイカーによる観光客運送サービスを開始した兵庫県養父市の「やぶくる」を紹介。また[Person]では、パブリーダンスで一世を風靡し、大阪万博をモチーフとした作品もある気鋭の振付師に登場いただきました。鼎談そしてオピニオンでも指摘されたように、電力会社は地域に根ざすインフラ企業。[かんでんFocus]では地域社会と「共に考え共に未来を創る」という思いで2015年に発足した地域エネルギー本部の取り組みや抱負を訊きました。[現場力ノ最前線]では、明治期の運転開始以来、京都ひいては日本の近代化の原動力となり、127年後の今も京都の街を支え続けるとともに、今年からは産業観光資源として一般公開も始めた「蹴上発電所」を守る者たちの活動を追いました。躍動感溢れる眩しい季節、夏への扉を開けながら、新しい『躍』をお届けします。(T)

躍

題字 森 詳介(関西電力株式会社 相談役)

『躍』(やく)という誌名は、皆さまとともに「躍進」「飛躍」していきたい、また皆さまにとって「心躍る」広報誌でありたい、との思いを込めて名づけました。

『躍』の内容はホームページでもご覧いただけます。
<http://www.kepco.co.jp/yaku/>

発行●関西電力株式会社 広報室
発行人／松倉克浩 編集人／近藤賀彦
〒530-8270 大阪市北区中之島3丁目6番16号 電話06-7501-0240
企画／編集●株式会社エム・シー・アンド・ビー

INFORMATION



新CMで、万博誘致活動をさらに応援します！

関西電力は、2025年大阪での国際博覧会実現に向けた取り組みなどで盛り上がる関西地域の魅力をお伝えすることで、誘致活動がより広く発信されるとともに、関西地域の価値向上の一助になりたいとの思いで、新CM「MOVE the KANSAI」篇を放映しています。関西出身の男性ロックバンド「ウルフルズ」が書き下ろしたCMオリジナル楽曲「パワー」に合わせ、『あなたのパワーで関西を前へ』をコンセプトに、人々の笑顔と元気で関西はもっと前に向かっていく、そして関西電力もその力になりたい、という想いを伝えています。



ホームページから
新CMをご覧ください。

2025年国際博覧会を
大阪・関西へ

